

※令和4年度以降入学生用

学校番号	203
------	-----

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3 単位	年次	1 年次
使用教科書	「高等学校 数学 I 」 (数研出版)						
副教材等	「4プロセス 数学 I + A」 (数研出版) 「チャート式解法と演習 数学 I + A」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。
- ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

2 学習の到達目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能を習熟する。事象を数学的に考察する能力、数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり 解決の過程や結果を批判的に考察し判断することができる。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元 (題 材) の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 数 と 式	第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解	a: 乗法公式、因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単に帰着できることを理解するとともに、式を目的に応じて変形することができる。 b: 学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	<p>第2節 実数</p> <p>4 実数</p> <p>5 根号を含む式の計算</p>	<p>a: 数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と1対1に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。</p>	<p>提出ノート</p> <p>定期考査</p>		
	<p>第3節 1次不等式</p> <p>6 不等式の性質</p> <p>7 1次不等式</p> <p>8 絶対値を含む方程式・不等式</p>	<p>a: 1次不等式の解を求めることができる。</p> <p>b: 不等式の理解を深め、式を多面的に捉えて問題を考察することができる。</p> <p>c: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
第2章	<p>第1節 集合と論証</p> <p>1 集合</p> <p>2 命題と条件</p> <p>3 命題と証明</p> <p>集合と論証</p>	<p>a: 集合と命題に関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>b: ベン図などを用いて集合の考えを論理的に考察し、簡単な命題の証明について考察することができる。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>定期考査</p>	
第3章	<p>第1節 2次関数とグラフ</p> <p>1 関数とグラフ</p> <p>2 2次関数のグラフ</p> <p>2次関数</p>	<p>a: 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解しており、平行移動を利用して2次関数のグラフを描くことができる。</p> <p>b: 2次関数の式とグラフについて、コンピュータなどの情報機器を用いて描くなどして、多面的に考察することができる。</p> <p>c: 2次関数とそのグラフの性質や特徴について関心をもち、それらを2次関数の考察に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>

※令和4年度以降入学生用

	<p>第2節 二次関数の値の変化</p> <p>3 二次関数の最大・最小</p> <p>4 二次関数の決定</p>	<p>a: 二次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値を求めることができる。</p> <p>b: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察することができる。</p> <p>c: 二次関数とそのグラフの性質や特徴について関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
2 学 期	<p>第3節 二次方程式と二次不等式</p> <p>5 二次方程式</p> <p>6 二次関数のグラフとx軸の位置関係</p> <p>7 二次不等式</p>	<p>a: 二次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値、二次方程式・二次不等式の解を求めることができる。</p> <p>b: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察することができる。</p> <p>c: 二次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
第 4 章 図 形 と 計 量	<p>第1節 三角比</p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角比の相互関係</p> <p>3 三角比の拡張</p>	<p>a: 鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。</p> <p>b: 図形の構成要素間を関係を三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。</p> <p>c: 三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p>

※令和4年度以降入学生用

		<p>第2節 三角形への応用</p> <p>4 正弦定理</p> <p>5 余弦定理</p> <p>6 正弦定理と余弦定理の応用</p> <p>7 三角形の面積</p> <p>8 空間図形への応用</p>	<p>a: 正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。</p> <p>b: 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察することができる。</p> <p>c: 正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>
3 学 期	第 5 章 デ ー タ の 分 析	<p>1 データの整理</p> <p>2 データの代表値</p> <p>3 データの散らばりと四分位数</p> <p>4 分散と標準偏差</p>	<p>a: データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、分散及び標準偏差などの知識を身に付けている。</p> <p>c: 分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、事象の考察に活用しようとしている。</p>	<p>確認テスト</p> <p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>		<p>観察</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>
		<p>5 2つの変量の間関係</p>	<p>a: 散布図を描く、相関係数を求めるなどの技能を身に付けており、それらの意味を理解している。</p> <p>b: 散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。</p> <p>c: 散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>
		<p>6 仮説検定の考え方</p>	<p>a: 具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解することができる。</p> <p>b: 主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察することができる。</p>	<p>観察</p> <p>定期考査</p>	<p>ワークシート</p>	

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ（文）	単位数	4単位	年次	2年次
使用教科書	「数学Ⅱ Advanced」（東京書籍）						
副教材等	「PRIME 数学Ⅱ」（東京書籍） 「チャート式解法と演習 数学Ⅱ」（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。
- ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。

※令和4年度以降入学生用

2 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元 (題 材) の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 数 と 証 明	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	a: 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。分数式の約分、四則計算ができる。 b: 多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 c: 恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを比較して考察しようとする。	定期 考 査 確 認 テ ス ト	定期 考 査 提 出 ノ ー ト	提 出 ノ ー ト 振 り 返 り シ ー ト
		第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	a: 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 b: 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することがで	提 出 ノ ー ト 定 期 考 査	定期 考 査 提 出 ノ ー ト	提 出 ノ ー ト 振 り 返 り シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

			<p>きる。</p> <p>c: 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。</p>			
第2章 複素数と方程式	<p>第1節 複素数と2次方程式の解</p> <p>1 複素数とその計算</p> <p>2 2次方程式の解</p> <p>3 解と係数の関係</p>	<p>a: 負の数の平方根を含む式の計算を、虚数単位を用いて処理することができる。</p> <p>b: 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。</p> <p>c: 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>振り返りシート</p>	
	<p>第2節 高次方程式</p> <p>4 剰余の定理と因数定理</p> <p>5 高次方程式</p>	<p>a: 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。</p> <p>b: 多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。</p> <p>c: 1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>	
第3章 図形と方程式	<p>第1節 点と直線</p> <p>1 直線上の点</p> <p>2 平面上の点</p> <p>3 直線の方程式</p> <p>4 2直線の関係</p>	<p>a: 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。</p> <p>b: 直線が x, y の1次方程式で表せることを理解している。</p> <p>c: 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>	

※令和4年度以降入学生用

		第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	a: x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 b: 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 c: 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
2 学 期		第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	a: 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 b: 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみることができる。 c: 放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
第 4 章 三 角 関 数	第1節 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用	a: 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によってもとめることができる。 b: 三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 c: 周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
		第2節 加法定理 6 加法定理 7 加法定理の応用	a: 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 b: 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。 c: 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもち、	ワークシート 定期考査	提出ノート ワークシート 定期考査	観察 提出ノート ワークシート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数	a: 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。 b: 指数関数のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。 c: 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
		第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	a: 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 b: 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 c: 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
3学期	第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式	a: 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 c: 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式をもとめようとする。	確認テスト ワークシート 定期考査		観察 ワークシート 振り返りシート
		第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	a: 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 b: 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 c: 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。	ワークシート 定期考査	提出ノート ワークシート 定期考査	観察 提出ノート ワークシート 振り返りシート
		第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	a: 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 b: 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。	観察 定期考査	ワークシート	

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ（理）	単位数	4単位	年次	2年次
使用教科書	「数学Ⅰ Advanced」（東京書籍）						
副教材等	「PRIME 数学Ⅱ+B」（東京書籍） 「チャート式解法と演習 数学Ⅱ+B+C」（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。
- ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。
- ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元 (題 材) の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 数 と 証 明	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	a: 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。分数式の約分、四則計算ができる。 b: 多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 c: 恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを比較して考察しようとする。	定期 考 査 確 認 テ ス ト	定期 考 査 提 出 ノ ー ト	提 出 ノ ー ト 振 り 返 り シ ー ト
		第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	a: 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 b: 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することがで	提 出 ノ ー ト 定 期 考 査	定期 考 査 提 出 ノ ー ト	提 出 ノ ー ト 振 り 返 り シ ー ト

※令和4年度以降入学生用

			<p>きる。</p> <p>c: 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。</p>			
第2章 複素数と方程式	<p>第1節 複素数と2次方程式の解</p> <p>1 複素数とその計算</p> <p>2 2次方程式の解</p> <p>3 解と係数の関係</p>	<p>a: 負の数の平方根を含む式の計算を、虚数単位を用いて処理することができる。</p> <p>b: 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。</p> <p>c: 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>振り返りシート</p>	
	<p>第2節 高次方程式</p> <p>4 剰余の定理と因数定理</p> <p>5 高次方程式</p>	<p>a: 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。</p> <p>b: 多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。</p> <p>c: 1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>	
第3章 図形と方程式	<p>第1節 点と直線</p> <p>1 直線上の点</p> <p>2 平面上の点</p> <p>3 直線の方程式</p> <p>4 2直線の関係</p>	<p>a: 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。</p> <p>b: 直線が x, y の1次方程式で表せることを理解している。</p> <p>c: 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>	

※令和4年度以降入学生用

		<p>第2節 円</p> <p>5 円の方程式</p> <p>6 円と直線</p> <p>7 2つの円</p>	<p>a: x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。</p> <p>b: 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。</p> <p>c: 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
2 学 期		<p>第3節 軌跡と領域</p> <p>8 軌跡と方程式</p> <p>9 不等式の表す領域</p>	<p>a: 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。</p> <p>b: 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみるることができる。</p> <p>c: 放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
第 4 章	三角関数	<p>第1節 三角関数</p> <p>1 角の拡張</p> <p>2 三角関数</p> <p>3 三角関数のグラフ</p> <p>4 三角関数の性質</p> <p>5 三角関数の応用</p>	<p>a: 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によってもとめることができる。</p> <p>b: 三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。</p> <p>c: 周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p>
		<p>第2節 加法定理</p> <p>6 加法定理</p> <p>7 加法定理の応用</p>	<p>a: 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。</p> <p>b: 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。</p> <p>c: 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもち、</p>	<p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>振り返りシート</p>

※令和4年度以降入学生用

	第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数	a: 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。 b: 指数関数のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。 c: 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
		第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	a: 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 b: 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 c: 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
3学期	第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式	a: 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 c: 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式をもとめようとする。	確認テスト ワークシート 定期考査		観察 ワークシート 振り返りシート
		第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	a: 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 b: 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 c: 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。	ワークシート 定期考査	提出ノート ワークシート 定期考査	観察 提出ノート ワークシート 振り返りシート
		第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	a: 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 b: 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。	観察 定期考査	ワークシート	

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4単位	年次	3年次
使用教科書	「高等学校 数学Ⅲ」 (数研出版)						
副教材等	「4プロセス数学Ⅲ」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。
- ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。
- ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	極限, 微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し, 極限について考察したり, 関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し, 数学的に考察したりする力, いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 関 数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	a: 分数関数の定義域や漸近線などについて理解し, 簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 b: 逆関数の定義から, 逆関数の定義域や値域, 性質を考察することができる。 c: 方程式や不等式の考察に, 積極的に関数のグラフを活用しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
	第 2 章 極 限	第1節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数	a: 収束する数列の極限値の性質を理解し, 正しく適用できる。 b: 漸化式で定められる数列について, 一般項を求めることで既習内容に帰着し, 極限を求めることができる。 c: 無限等比級数の収束, 発散について, 既習である無限等比数列を用いて考察しようとする。	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

		第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	a: 右側極限, 左側極限が異なる関数について, それぞれの極限を求めることができる。 b: 三角関数の極限を活用して, 図形に関する極限について考察できる。 c: 連続でない関数があることに興味をもち, グラフを用いてそのことを調べようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
2 学 期	第 3 章 微 分 法	第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	a: 定義にしたがって微分係数を求めることができる。 b: これまで学んだ公式を用いて, 新たな公式を証明することができる。 c: 連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
		第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第 n 次導関数 5 曲線の方程式と導関数	a: 対数微分法を用いて複雑な関数を微分することができる。 b: 第2次, 第3次導関数などを求めることで, 一般の第 n 次導関数を求めることができる。 c: 陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について, その簡便さを理解し, 積極的に利用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
	第 4 章 微 分 法 の 応 用	第1節 導関数の応用 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ	a: 曲線の法線の方程式を求めることができる。 b: 増減や凹凸, 漸近線などを調べて, 関数のグラフをかくことができる。 c: 存在定理である平均値の定理について, その意味を理解し, c の値を具体的に求めることで確かめようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
		第2節 いろいろな応用 5 方程式, 不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	a: 直線上を運動する点の速度と加速度を求めることができる。 b: 関数の1次の近似式を活用して, 数の近似値を求めることができる。 c: 不等式を関数的視点で捉え, 微分法を利用して解決しようとする。	ワークシート 定期考査	提出ノート ワークシート 定期考査	観察 提出ノート ワークシート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	第 5 章 積 分 法 と そ の 応 用	第1節 不定積分 1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分	a: 三角関数や指数関数の不定積分を求めることができる。 b: 部分分数に分解する方法を理解している c: 簡単には不定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。	確認テスト ワークシート 定期考査		観察 ワークシート 振り返りシート
		第2節 定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題	a: 三角関数で置換する置換積分法を用いて定積分を計算できる。 b: 区分求積法について理解し、長方形の作り方を変えた場合などについても考察,説明ができる。 c: 定積分を面積と関連付けて理解を深めようとする。	ワークシート 定期考査	提出ノート ワークシート 定期考査	観察 提出ノート ワークシート 振り返りシート
		第3節 積分法の応用 7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ	a: 定積分を用いて図形の面積を求めることができる。 b: 立体の断面がどのような図形になるかを考え, 定積分を用いて体積求めることができる。 c: 曲線上の点が通過する道のりを, その曲線の長さで捉えることに興味をもち,理解を深めようとする。	観察 定期考査	ワークシート	

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学A	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「高等学校 数学A」 (数研出版)						
副教材等	「4プロセス 数学I+A」 (数研出版) 「チャート式解法と演習 数学I+A」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。 ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。 ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。 ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。 ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

2 学習の到達目標

<p>場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<p>図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 場 合 の 数 と 確 率	第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組み合わせ	a: 具体的な事象を基に順列及び組み合わせの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 b: 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 c: 事象を場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
		第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質	a: 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。 b: 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 c: 事象を確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
2 学 期		7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	a: 独立な試行や条件付き確率や期待値の意味を理解し、簡単な場合について確率をそれぞれ求めることができる。 b: 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 c: 事象を確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図	a:平面図形に関する基本的な性質について理解している。 b:コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 c:事象を平面図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
		第2節 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体	a:空間図形に関する基本的な性質について理解している。 b:図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 c:事象を空間図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
	第3章 数学と人間の活動	1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 7 記数法 8 座標の考え方 9 ゲーム・パズルの中の数学	a:数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 b:パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 c:人間の活動における数学のよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※令和4年度以降入学生用

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「数学B Advanced」 (東京書籍)						
副教材等	「PRIME 数学II+B」 (東京書籍) 「チャート式解法と演習 数学II+B+C」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none">・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

数列, 統計的な推測について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<p>離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元(題 材)の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 数 列	第1節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	<p>a: 等差数列の公差, 一般項などを理解している。また, 等比数列の公比, 一般項などを理解している。</p> <p>b: 等差数列や等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。</p> <p>c: 複利計算に興味・関心をもち, 具体的な問題に取り組もうとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
		第2節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	<p>a: 階差数列を利用して, もとの数列の一般項が求められる。</p> <p>b: 群数列を理解し, ある特定の群に属する数の和が求められる。</p> <p>c: 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち, 自然数の3乗の和の公式を導こうとする。また, さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>

※令和4年度以降入学生用

		<p>第2節 漸化式と数学的帰納法</p> <p>9 漸化式</p> <p>10 数学的帰納法</p>	<p>a: 数学的帰納法を用いて等式, 不等式, 自然数に関する命題を証明できる。</p> <p>b: 複雑な漸化式を, おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。</p> <p>c: 具体的な事象の考察に, 漸化式を積極的に活用しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
2 学 期	第 2 章 統 計 的 な 推 測	<p>第1節 確率分布</p> <p>1 確率変数と確率分布</p> <p>2 確率変数の期待値と分散</p> <p>3 確率変数の和と積</p> <p>4 二項分布</p> <p>5 正規分布</p>	<p>a: 確率密度関数や分布曲線の定義を理解し, 連続型確率変数について, 確率を求めることができる。</p> <p>b: 確率変数の期待値, 分散, 標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。</p> <p>c: 二項分布に興味・関心をもち, さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>
3 学 期		<p>第2節 統計的な推測</p> <p>6 母集団と標本</p> <p>7 標本平均の分布</p> <p>8 推定</p> <p>9 仮説検定</p>	<p>a: 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。</p> <p>b: 推定や信頼区間の考え方がわかる。</p> <p>c: 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち, 現実の問題の解決に役立てようとする。</p>	<p>確認テスト</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>提出ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p>	<p>観察</p> <p>提出ノート</p> <p>振り返りシート</p>

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学C	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「高等学校 数学C」 (数研出版)						
副教材等	「4プロセス数学C」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。 ・授業用ノートと問題集用のノートを用意してください。 ・問題集は、問題集の答えを見ずに自分なりの答えを出しましょう。解答には途中式や図、考え方も書き、解き終わったら各自で答え合わせをし、間違った問題はなぜ間違えたのか原因をつきとめ、間違い直しをしましょう。 ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。 ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。 ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。 ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫についての認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈する技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し, 演算法則やその図形的な意味を考察する力, 図形や図形の構造に着目し, それらの性質を統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元(題材)の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 章 平 面 上 の ベ ク ト ル	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	a:平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し, 具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。 b: 点の座標とベクトルの成分の関係を, 座標平面上の図形の問題に活用できる。 c: 内積の性質を, 既習の知識を用いて証明しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
		第2節 ベクトルと平面図形 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	a:点の位置を, 基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 b:点が線分 AB 上に存在する条件を活用して, 点 P の存在範囲を求めることができる。 c:様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	第 2 章 空 間 の ベ ク ト ル	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への 応用 6 座標空間における図 形	a: 空間の4点と同じ平面上にある条件を理解し、点の座標を定めることができる。 b: 球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。 c: 平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 振り返りシ ート
		第 3 章 複 素 数 平 面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	a: 複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 b: 複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察できる。 c: 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート
3 学 期	第 4 章 式 と 曲 線	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 6 2次曲線の性質	a: 楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 b: 軌跡の考え方をを用いて、2次曲線の方程式を導くことができる。 c: 複雑な方程式で表される2次曲線について、平行移動の考えを利用して調べようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート
		第2節 媒介変数表示 と極座標 7 曲線の媒介変数表 示 8 極座標と極方程式 9 コンピュータの利用	a: 簡単な曲線を極方程式で表すことができる。 b: いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。 c: サイクロイドについて、具体的な点をプロットするなどして、媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。	ワークシ ート 定期考査	提出ノート ワークシ ート 定期考査	観察 提出ノート ワークシ ート 振り返りシ ート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学演習 I A	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書							
副教材等	「ニューステージ 数学演習 I・A + II・B・C」 (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・十分な時間をとって予習をしてください。解答には途中式や図、考え方も書きましょう。わからない問題については、疑問となる用語や定理、公式の確認を教科書や参考書から丁寧に行ってください。
- ・予習で理解できなかった内容については、授業の中でしっかりと確認しましょう。それが家庭学習での復習内容にもなります。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。
- ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

- ・既習事項である数学 I A の内容について総復習し、基礎的な知識の習得と技能を習熟する。
- ・様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理する力を身につける。
- ・数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数学についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫についての認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈する技能を身に付けるようにする。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し, 様々な数学的技法によってそれを処理し, その結果を解釈する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	数 学 I	1 数と式 2 集合と論理 3 2次関数 4 図形と計量 5 データの分析	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に着けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	数 学 A	1 場合の数 2 確率 3 整数	<p>a: 各分野の基本事項を理解している。重要問題・典型問題の解法が定着している。</p> <p>b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。</p> <p>c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。</p>	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
3 学 期	実 践 演 習 問 題	1 実践演習問題 2 別解の考察	<p>a: 各分野の基本事項を理解している。重要問題・典型問題の解法が定着している。</p> <p>b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。</p> <p>c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。</p>	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学演習ⅡB	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書							
副教材等	「ニューステージ 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C」(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・十分な時間をとって予習をしてください。解答には途中式や図、考え方も書きましょう。わからない問題については、疑問となる用語や定理、公式の確認を教科書や参考書から丁寧に行ってください。
- ・予習で理解できなかった内容については、授業の中でしっかりと確認しましょう。それが家庭学習での復習内容にもなります。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。
- ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

- ・既習事項である数学ⅡBCの内容について総復習し、基礎的な知識の習得と技能を習熟する。
- ・様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理する力を身につける。
- ・数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数学についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫についての認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈する技能を身に付けるようにする。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理し、その結果を解釈する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	数 学 II	1 方程式・式と証明 2 図形と方程式 3 三角関数 4 指数関数・対数関数 5 微分法・積分法	a: 各分野の基本事項を理解している。重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に着けている。共通テスト方式の問題について、題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	数 学 B C	1 数列 2 統計的な推測 3 ベクトル 4 複素数平面 5 式と曲線	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
3 学 期	実 践 演 習 問 題	1 実践演習問題 2 別解の考察	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	203
------	-----

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学演習Ⅰ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書							
副教材等	「ニューステージ 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C」(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。 ・十分な時間をとって予習をしてください。解答には途中式や図、考え方も書きましょう。わからない問題については、疑問となる用語や定理、公式の確認を教科書や参考書から丁寧に行ってください。 ・予習で理解できなかった内容については、授業の中でしっかりと確認しましょう。それが家庭学習での復習内容にもなります。 ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。 ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。 ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。 ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項である数学ⅠAの内容について総復習し、基礎的な知識の習得と技能を習熟する。 ・様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理する力を身につける。 ・数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数学についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫についての認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈する技能を身に付けるようにする。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理し、その結果を解釈する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	数 学 I	1 数と式 2 集合と論理 3 2次関数 4 図形と計量 5 データの分析	a: 各分野の基本事項を理解している。重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に着けている。共通テスト方式の問題について、題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	数 学 A	1 場合の数 2 確率 3 整数	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に着けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート
3 学 期	実 践 演 習 問 題	1 実践演習問題 2 別解の考察	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に着けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和6年度 数学科

教科	数学	科目	数学演習 S	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書							
副教材等	「入試必修問題集 精練 1st Edition」 (啓林館/河合塾)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・十分な時間をとって予習をしてください。解答には途中式や図、考え方も書きましょう。わからない問題については、疑問となる用語や定理、公式の確認を教科書や参考書から丁寧に行ってください。
- ・予習で理解できなかった内容については、授業の中でしっかりと確認しましょう。それが家庭学習での復習内容にもなります。
- ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。学校で習った内容はその日のうちに理解しようとし、疑問点は早めに先生に質問し、テスト前に焦らないためにも計画的に問題集に取り組みましょう。
- ・授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。
- ・学習した内容が日常生活のどのような場面で使われているかを調べたり、考えたりすることで、今後活用していけるように意識しましょう。
- ・高校数学では、答えだけではなく、答えに至る過程の説明が重要になってきます。読み手を意識した解答を記述できるように日々意識して学習しましょう。

2 学習の到達目標

- ・既習事項である数学 I II ABC の内容について総復習し、基礎的な知識の習得と技能を習熟する。
- ・様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し、様々な数学的技法によってそれを処理する力を身につける。
- ・数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

※令和4年度以降入学生用

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数学についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫についての認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈する技能を身に付けるようにする。	様々な自然現象・社会現象を数式・グラフなどを用いて表現し, 様々な数学的技法によってそれを処理し, その結果を解釈する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	数 学 I A	1 数と式 2 集合と論理 3 2次関数 4 図形と計量 5 データの分析 6 場合の数・確率 7 整数	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて, 反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
	数 学 II	1 方程式・式と証明 2 図形と方程式 3 三角関数	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について, 他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について, 題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し, 不得意分野の克服に向けて,	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

			反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。			
2 学 期	数 学 II	4 指数関数・対数関数 5 微分法・積分法	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について、題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	定期考査	観察 振り返りシート
	数 学 B C	1 数列 2 統計的な推測 3 ベクトル 4 複素数平面 5 式と曲線	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について、題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト レポート 定期考査	提出ノート レポート	観察 提出ノート 振り返りシート
3 学 期	融 合 問 題	1 融合問題 2 別解の考察	a: 各分野の基本事項を理解している。 重要問題・典型問題の解法が定着している。 b: 記述式の問題について、他者が読んで理解しやすい答案作成能力を身に付けている。共通テスト方式の問題について、題意を的確に把握して適切な解法を選択できる。 c: 自分の得意分野・不得意分野を的確に把握し、不得意分野の克服に向けて、反復演習などにより典型問題の解法定着に努めている。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	観察 提出ノート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度